

登録コード	HM229101	開講年度	2026				
授業題目	成人保健学演習 B					担当教員	伊澤 淳
英文授業名	Practice in Adult Health Science B					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限 火曜・6時限	対象学生	成人保健学ユニット／1年次
講義室				授業形態	演習	備考	選択科目
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄					(授業の達成目標)	
	2026HM保健学分野初, 2025HM保健学分野初, 2024HM保健学分野初, 2023HM保健学分野初						
	【研究科共通_2024年度以前対象】専門分野以外の課題を見渡し自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力					⇄	心血管病に関連する各領域の診療ガイドラインに基づいた診断法と治療法、予防法を学習し、心血管病の発症および再発予防に貢献する研究の社会的意義を認識する。
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					⇄	循環器病学の知識と心血管病の発症および再発の予防に関するエビデンスに基づいて、最新の臨床研究を読解し、実践と応用につなげる技能を修得する。
(2)詳細/Detailed information	心血管病の発症や再発の危険因子（高血圧，糖尿病，脂質異常症などの各種生活習慣病）に関して学び，心血管病の0次，1次，2次予防の概念や治療のエビデンスを学修し，世界，日本，長野県の視点で健康課題の現状と課題を説明できるようになる。 人の各成長段階（小児－成人）における生活習慣と，成人期以降の心血管病の発症との関連について，大規模長期観察研究の知見を学修し，その内容に基づき，各自の専門領域における健康管理の実践を想起できるようになる。						
(3)授業の概要/Overview of course	虚血性心疾患などの動脈硬化性疾患や心不全などの心血管病について，疫学，病態，予後予測因子を学び，診療ガイドラインに基づいた診断と治療，予防法を学修します。 日本の死因の第2位に位置する脳心血管病の発症および再発予防に関するエビデンスについて情報収集し，臨床研究の読解と解釈，応用方法などについて修得します。 世界，日本，長野県の健康課題の現状と課題を学修し，各地域における研究成果と保健・医療の取り組みを学修し，今後の展開を考察します。 中間で心血管病の現状と課題についてテーマを設定し，検索した文献に基づいたレポートをまとめます。 後半は小児－成人にかけて人の成長段階の生活習慣と，疾患の発症に関する知見を学修します。						
(4)授業計画/Course plan	日時は受講学生と検討のうえ決定します。研究の進捗により所要時間は異なりますが，項目ごとの指導時間に加え，事前事後の自主研究時間を要します。 第1回（9月29日）：生活習慣病の概要：現状と課題 第2回（10月6日）：高血圧（高血圧治療ガイドライン 2025） 第3回（10月13日）：糖尿病（糖尿病診療ガイドライン 2024，高齢者糖尿病診療ガイドライン 2023） 第4回（10月20日）：脂質異常症（脂質異常症診療ガイド 2023年版） 第5回（10月27日）：動脈硬化（動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022版） 第6回（11月10日）：虚血性心疾患（冠動脈疾患の一次予防に関する診療ガイドライン 2023年改訂版） 第7回（11月17日）：心不全（心不全診療ガイドライン 2025年改訂版） 第8・9回（11月24日，12月1日）：文献検索・課題調査 中間レポート 第10回（12月8日）：小児のメタボリックシンドロームと成人の心血管疾患の関連 第11回（12月15日）：生活習慣病とその予防に関する研究の概要 第12回（12月22日）：学童期の生活習慣病研究 第13回（1月5日）：青年期の生活習慣病研究 第14回（1月12日）：成人の生活習慣病研究 第15回（1月19日）：期末試験						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	1）中間レポート40%，期末試験60%。合計100点。 2）中間レポートおよび期末試験（筆記試験）により，心血管病の現状と課題および解決のための方策に関する学修到達度を3）の基準により評価し，いずれも60%以上の得点を合格とする。 3）中間レポートおよび期末試験は，以下の共通の基準により100点満点で評価し，それぞれを40点、60点に換算して合計する。 90-100点（秀）：到達目標水準から見て卓越している。最新の臨床研究の読解と考察に基づき，新たな診療ガイドラインが想起できる。 80-89点（優）：到達目標水準よりかなり上にある。臨床研究のエビデンスレベルに従い，予防や診療への応用が立案できる。 70-79点（良）：到達目標水準よりやや上にある。現在の診療ガイドラインを理解し，現状と課題を説明できる。 60-69点（可）：到達目標水準にある。授業の内容を理解し，現状と課題に基づいた課題設定と考察ができる。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	【履修上の注意】 参加できない場合は前日までに連絡してください。 【事前学習】 (3) 授業計画に示した各診療ガイドラインについて，指定個所を事前学習する。 【事後学習】 次回の授業の最初に前回の授業内容について意見交換および討論の時間を設定するか，ミニレポートを実施するため，復習をして臨んでください。 【テキスト・教材・参考書】 (3) 授業計画に示した各診療ガイドライン 内科学 朝倉書店						

(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	オフィスアワー（金曜日16ー17時）に伊澤研究室（保健学科中校舎4階）で面談またはリモートで相談に対応します。 担当教員のメールアドレス：izawa611@shinshu-u.ac.jp 面談等の時間帯の予約は、事前に候補日時をメールで複数提示していただき、日程の調整をお願いします。 研究室の電話番号：0263-37-3506
(8)授業の形式 /Course format	テキスト，プリント，スライド等により講義を進めます。海外の英文資料を含みます。 講義中の質疑応答を重視します。 最新のガイドラインを参照し，世界の関連学会が発表しているガイドラインの情報と最新の研究成果を比較します。